

赤井直正



赤井(荻野)直正プロフィール

織田信長の精鋭部隊である明智光秀軍を破ったことから、戦国の勇将として称えられる赤井(荻野)直正。丹波国水上郡を中心に勢力を誇った赤井氏の出身である。叔父である荻野秋清を寮の席上で刺殺。そのまま、黒井城を襲った。通称の「悪右衛門(悪は勇猛さを示した)」は、この事件がきっかけともいわれる。

1557年(弘治3)、兄・赤井家清が丹波の覇権を争った香良合戦の傷がもとで、死去。まだ幼い甥の忠家が赤井氏を継ぐと、その後見人として赤井一族を実質的に主導した。武勇に優れ、丹波国一の實力者であった内藤宗勝(松永久秀の弟)を討ち取るなど、隣国にもその名を轟かせ、「丹波の赤鬼」として恐れられた。地元では直正の武勇と遺徳を偲び、毎年秋に「黒井城まつり」が催されている。

(注)直正は養子に入った後、荻野姓を名乗りましたが、本誌では赤井姓で表記を統一しています。



室町時代の野戦用の兜で、祖父・忠家から譲り受けたとされている。直正が亡くなった後、武運長久や子孫繁栄を願って、兵主神社に奉納された。(非公認)

名高き武士
「丹波の赤鬼」として名をせした直正。甲斐・武田氏の軍学書である「甲陽軍鑑」にも「名高き武士」として、徳川家康や長宗我部元元とともに「丹波ノ赤井悪右衛門」と記され、勇猛ぶりが伝えられている。

小説『貂(たぬ)の皮』
賤ヶ岳七本槍として有名な豊臣秀吉の家臣・脇坂安治は、開城を説くため単独で黒井城に乗り込んだとされる。直正は説得に応じなかったが、安治の勇気を讃えて、貂の皮で作った槍の鞘(さや)を贈ったという。司馬遼太郎の小説『貂の皮』でも描かれている。

黒井城下館跡(興禅寺)
黒井城跡の登山口にある興禅寺は下館跡で、平時、城主はふもとの館で政務を行った。水をたたえた七間濠、高石垣と白い練り塀を巡らせ、堅固な防衛施設を備えている。丹波攻めの後、光秀の重臣・斎藤利三が城主となり、娘のお福(春日届)がここで生まれ、3歳まで育ったとされる。
[所]兵庫県丹波市春日町黒井2263



兵主神社 → 直正愛用の兜が伝わる～
兵庫の守護神として鎮祭され、全国にある兵主神社の丹波国の一社。戦国時代からは特に痘瘡の守り神として有名。神社には荻野一族が寄進したと伝わる愛用の兜が奉納されている。
[所]兵庫県丹波市春日町黒井2956

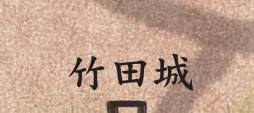


直正の足跡

西暦	関連事項	西暦	関連事項
1529年(享禄2)	現・丹波市水上町新郷・後屋城で、丹波国水上郡に威勢をふるった赤井時家の次男として誕生。	1570年(元亀元)	織田信長に従い、丹波国内の三部(水上・天田・何鹿郡)の所領を安堵される。
1554年(天文23)	叔父である荻野秋清を刺殺して、黒井城を奪取。黒井城主となる。	1571年(元亀2)	隣国である但馬から山名氏が丹波へ侵入。直正は反撃し、敵方の竹田城を占拠する。
1555年(弘治元)	兄・赤井家清が足立・芦田連合軍との激戦で負傷。その際の傷がもとで、2年後に死去。	1576年(天正4)	明智軍による第一次丹波攻め。黒井城の戦いにより、明智軍を撃退する。
1565年(永禄8)	丹波の覇権を争った内藤宗勝を攻め滅ぼし、幼少の甥・忠家を後見して、赤井氏を率いる。	1578年(天正6)	第二次黒井城包囲の前、3月に城内にて病死。翌年8月、黒井城が陥落する。
	丹波に一大勢力を築く。隣国の但馬、丹波へ侵攻しながら、戦国大名化を果たそうとした。		その後、赤井氏は忠家の子孫が徳川家の旗本となり、直正の子孫は藤堂家の重臣となる。

但馬国

竹田城

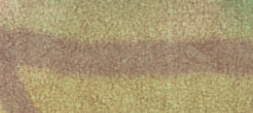


●竹田城跡【兵庫県朝来市】
「日本のマチュピチュ」として人気が高い山城遺跡。隣国の但馬・山名氏が水上郡に攻め込んだ際に、直正が反撃して城を一時占拠したこともあった。秋には雲海に浮かぶ「天空の城」を望むことができる。
[所]兵庫県朝来市和山町竹田古城山169
[所]情報館 天空の城 079-674-2120



丹波国

黒井城

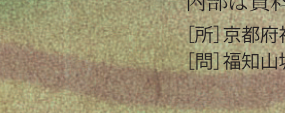


●黒井城跡
標高356m、猪ノ口山に築かれた赤井直正の居城で、国の史跡。周囲約10kmにも及ぶ山系全体が巨大な城塞となっていて、明智軍の猛攻を何度も退けた堅城である。本丸には石垣などが残っている。山頂からは絶景が広がり、春日地域を一望できる。
[所]兵庫県丹波市春日町黒井



播磨国

山崎古戦場跡・天王山

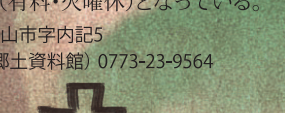


●山崎古戦場跡・天王山【京都府乙訓郡大山崎町】
本能寺の変の後、光秀と秀吉による山崎の合戦が行われた場所。「天下分け目の決戦場」として知られる天王山は、ハイキングコースとなっている。秀吉が味方の士気を高めるため旗印を掲げた旗立松の展望台からは古戦場を一望できる。
[所]京都府乙訓郡大山崎町



丹波国

明智軍の分断作戦



丹波守護代を務めた内藤氏の居城で、山陰道を眼下に望む口丹波随一の要害である。丹波攻めにより、落城した。キリシタン武将、内藤ジョアンゆかりの城としても有名。
[所]京都府南丹市八木町八木



丹波国

八木城跡



●八木城跡【京都府南丹市】
丹波守護代を務めた内藤氏の居城で、山陰道を眼下に望む口丹波随一の要害である。丹波攻めにより、落城した。キリシタン武将、内藤ジョアンゆかりの城としても有名。
[所]京都府南丹市八木町八木



丹波国

八上城跡

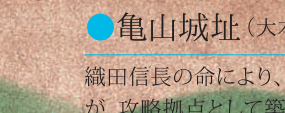


●八上城跡【兵庫県篠山市】
丹波の名族・波多野氏の居城で、高城山に城を築いたのが始まり。赤井氏と協力して、光秀軍を打ち破った。戦国期の代表的な山城遺構が残り、本丸跡には最後の城主・秀治の碑が佇んでいる。
[所]兵庫県篠山市八上 高城山

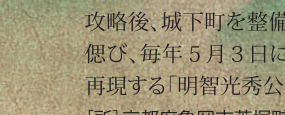


丹波国

勝竜寺城公園

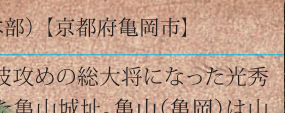


●勝竜寺城公園【京都府長岡京市】
光秀と並ぶ智將で、共に丹波・丹後国の平定に力を尽くした盟友・細川幽斎(藤孝)ゆかりの城。光秀の娘・玉(ガラシャ)が藤孝の息子・忠興に嫁いだ城としても知られる。羽柴秀吉との山崎の合戦では明智軍の本陣となった。鉄砲に対応した先駆的な築城技術を用いた城で、現在は公園として整備。秋には「長岡京ガラシャ祭」を開催。
[所]京都府長岡京市勝竜寺13-1(園)公園管理事務所 075-952-1146

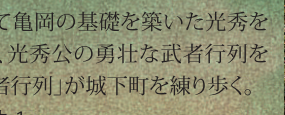


丹波国

本能寺跡



●本能寺跡【京都府京都市】
日本史上でも謎多き事件とされる「本能寺の変」の舞台となった寺院跡。現在地の寺町御池ではなく、堀川四条の近くにあり、後に豊臣秀吉によって現在地に再建された。現在は石碑が建立されている。
[所]京都府京都市中京区元本能寺南町



丹波国

亀山城址



●亀山城址(大本本部)【京都府亀岡市】
織田信長の命により、丹波攻めの総大将になった光秀が、攻略拠点として築いた亀山城址。亀山(亀岡)は山陰道の入口で交通の要衝であったことから、重要視された。現在は宗教法人大本の本部となっている。本能寺の変に際しては、亀山城を出発して老ノ坂の峠を越えて、沓掛で急進進路を変えて、京の本能寺を襲撃した。丹波攻略後、城下町を整備して亀岡の基礎を築いた光秀を偲び、毎年5月3日には、光秀公の勇壮な武者行列を再現する「明智光秀公武者行列」が城下町を練り歩く。
[所]京都府亀岡市荒塚町内丸1
※亀山城址の見学には大本本部受付への申し込みが必要です



丹波国

金山城跡

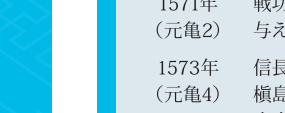


●金山城跡(写真:名勝「鬼の架橋」)
光秀が丹波攻めの際、黒井城の赤井氏と八上城の波多野氏の連携を断絶するために、群境に築かれた城。標高537mの頂上に築かれた山城で、本丸には石垣が一部残っている。頂上には大空に横たわる巨岩「鬼の架橋」がある。
[所]兵庫県丹波市柏原町上小倉



丹波国

本能寺跡

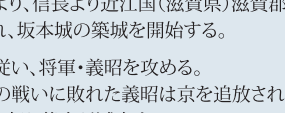


●本能寺跡【京都府京都市】
日本史上でも謎多き事件とされる「本能寺の変」の舞台となった寺院跡。現在地の寺町御池ではなく、堀川四条の近くにあり、後に豊臣秀吉によって現在地に再建された。現在は石碑が建立されている。
[所]京都府京都市中京区元本能寺南町



丹波国

黒井城下館跡(興禅寺)

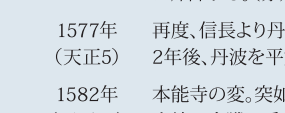


●黒井城下館跡(興禅寺)
黒井城跡の登山口にある興禅寺は下館跡で、平時、城主はふもとの館で政務を行った。水をたたえた七間濠、高石垣と白い練り塀を巡らせ、堅固な防衛施設を備えている。丹波攻めの後、光秀の重臣・斎藤利三が城主となり、娘のお福(春日届)がここで生まれ、3歳まで育ったとされる。
[所]兵庫県丹波市春日町黒井2263

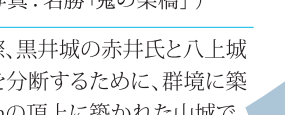


丹波国

兵主神社

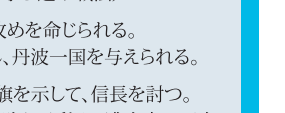


●兵主神社 → 直正愛用の兜が伝わる～
兵庫の守護神として鎮祭され、全国にある兵主神社の丹波国の一社。戦国時代からは特に痘瘡の守り神として有名。神社には荻野一族が寄進したと伝わる愛用の兜が奉納されている。
[所]兵庫県丹波市春日町黒井2956



丹波国

明智光秀プロフィール



戦国時代、織田信長の重臣として活躍した明智光秀。日本史上最大のミステリーとされる「本能寺の変」を起こすなど、その半生は謎に包まれた人物として知られる。逆臣のイメージがつきまどうが、領地では善政を施したとされ、京都府の亀岡市や福知山市など、今でも光秀を慕う地域が多い。信長家臣団の中では、教養豊かな知識人で智將と評され、当時の織田軍団で最も鉄砲の運用に長けていたともいわれる。

黒井城攻めで1度は赤井直正に敗れた光秀だったが、2度目の丹波攻めでは一気に黒井城を攻めず、周りの城から落とすという作戦を取った。さらに、二大勢力であった赤井氏と波多野氏を分断するため、中間地点にあたる郡境に金山城を築城。相手の戦意を奪う作戦で智略を駆使し、苦難の末に丹波を平定した。信長に「日向守(光秀)働き、天下の面目をほどく候」と、その戦功を激賞された。その後、突如として信長に反旗を翻し、「本能寺の変」を起こすことになった。



丹波攻め合戦図

西暦	関連事項	西暦	関連事項
1528年?(享禄元)	清和源氏を祖に持つ土岐氏の支流・明智氏の出身で、美濃国(岐阜県)に生まれたとされる。	1575年(天正3)	信長が丹波・丹後両国の平定を命じる。「推任」の姓と「日向守」の官位を与えられる。
1565年(永禄8)	この頃より、足利義昭を通じて、織田信長と接近。次第に信長に重用されるようになる。	1576年(天正4)	黒井城の直正を攻めるが、寝返った八上城の波多野秀治に背後を襲われて、命からがら坂本城に帰陣する。(赤井の呼び込み戦)
1571年(元亀2)	戦功により、信長より近江国(滋賀県) 瀬田郡を与えられ、坂本城の築城を開始する。	1577年(天正5)	再度、信長より丹波攻めを命じられる。2年後、丹波を平定し、丹波一国を与えられる。
1573年(元亀4)	信長に従い、将軍・義昭を攻める。横島城の戦いに敗れた義昭は京を追放され、事実上、室町幕府が滅亡する。	1582年(天正10)	本能寺の変。突如反旗を翻して、信長を討つ。山崎の合戦で秀吉に敗れ、近江へ逃走中に死去。

光秀の足跡



●金山城跡(写真:名勝「鬼の架橋」)
光秀が丹波攻めの際、黒井城の赤井氏と八上城の波多野氏の連携を断絶するために、群境に築かれた城。標高537mの頂上に築かれた山城で、本丸には石垣が一部残っている。頂上には大空に横たわる巨岩「鬼の架橋」がある。
[所]兵庫県丹波市柏原町上小倉



●柏原八幡神社
京都石清水八幡宮の別宮として創建され、丹波攻めの際に焼失。光秀の本陣が置かれた。天正13年に羽柴秀吉の命によって、家臣の堀尾吉晴が現在の社殿(国指定重要文化財)を再建。今は「柏原の厄神さん」の通称で親しまれている。
[所]兵庫県丹波市柏原町柏原3625



明智光秀

「織田信長」が認められた戦国の智將
Akechi Mitsuhide

「丹波の赤鬼」と称された歴戦の猛将
Akai Naomasa

© 2014 中川英明